

ね 猫とお年寄りの様子を観察してみる

初めて訪れたまちは、まずよく歩いてみるのが良い。もちろんその土地固有の地形や植生を調べたり、歴史や文化を学んだり、住んでいる人の話を聞いたりするのは重要だけれど、とにかく歩いてみる。そうすることで気づくことも多い。

随分前になるが、島原の古い街並みが残る界隈を歩いていた時に「ああ、本当に気持ちの落ち着く良いまちだな」と心から感じたことがあった。なぜそう感じたのか考えてみた。

道の両側に石垣が連なり、ところどころ屋敷の立派な門がある。さらに道の真ん中には湧水が流れる水路もある。そのような歴史を感じさせる佇まいが、心地よい気持ちにさせてくれているのは間違いない。ただ、それだけではなさそうだ。

そこからちよつと外れたところでは、古いけれどあまり手が入れられていない家もあるのだが、そちらの方が気持ちが良いのだ。そこで目につくのはお年寄りの姿だ。その地区が高齢化している証しとも言えるが、お年寄りが屋外に出て何するわけでもなく佇んでいる姿に惹かれる。道端にお年寄りがゆつたり佇むことができるのは、車も少なくスピードも出さず、そして通りのあちこちに日差しをさえぎる涼しげな木陰があるからか。目につくのはお年寄りだけではない。猫もいる。それも一匹や二匹ではない。飼い猫なのか野良猫なのかはわからないが、自由気ままに道端やちよつとした空き地で寝転んだり毛づくろいをしている。

お年寄りや猫が屋外でゆつたりとした時間を過ごすことができるということは、そこが、それだけ安全であり、佇む手がかりとなる要素に富んでいるということだ。そして、そのような環境はお年寄りや猫だけでなく、私を含め、あらゆる人に「本当に気持ちの落ち着く良いまちだな」と感じさせることになる。

その後「猫とお年寄りの様子を観察してみる」というのが、私がまちを歩きながら見る視点のひとつになった。このようにまちを見る自分なりの視点をいくつもつてみると、まちを歩くのも楽しいと思うのだがいかがだろう。